

地方創生時代の会議室と市民活動のあり方について



星 雅人 議員

質問..市が持つ会議室の内装や備品、利用のルールに変化を与え、バリエーションに富んだ会議室を設置してはどうかと考えるが、市の考えを伺います。

答弁..市民活動が活発に行えるよう利用方法を変えること、また利用方法等についての規制の緩和については、施設管理上の問題のない範囲で施設ごとに、または用途に応じて市民の皆様

方の要望に即したルールづくり
に努めていきます。

質問..生涯学習センター及び市民交流センターへボランティアコーディネーター、市民活動コーディネーターを配置すべきと考えるが市の考えを伺います。

答弁..大田原市生涯学習センター認定制度を平成23年度から実施し、今年度末までに40名の方を認定しています。市

民協働や福祉などの分野においても活躍できるコーディネーターを育成できるよう、関係各課と連携し情報の共有を図り、具体的なニーズに合った人材の育成や関係団体の支援に努め、将来的には、できるだけ早い時期にコーディネーターを配置する方向で進めていきます。

一般質問



大豆生田 春美 議員

中学生の英語力アップについて

質問..生徒が英語だけで交流する宿泊型研修の開催について検討結果を伺います。

答弁..英語教諭検討委員会では、生徒がALTと時間を共有し、本物の英語に触れる機会を提供するために、夏季休業を利用したイングリッシュデイの実施を検討するという結論に達しました。イングリッシュデイの実施に当たり、対象学年の絞り込み、

参加者の確保、会場への送迎やプログラム内容、事前準備と打ち合わせ時間の確保など、幾つかの課題はありますが、平成28年度の実施に向けて準備を進めていく予定です。

質問..イングリッシュデイは宿泊研修と違ってよろしいのか。

答弁..現在は、全員対象のイングリッシュデイをやる段階まで来ていませんので、各学校のリー

ダーを養成して、その生徒たちが、ある程度研修の結果が身についた段階で、本市の全校で行っている、ふれあいの丘の宿泊学習の中で、その中の2時間程度から始め、次は3時間と徐々に時間を延ばして、英語だけの生活をさせていきたいと報告を受けています。